

令和3年度 第1回長野市農業振興審議会 議事録（概要）

- 開催日時 令和3年7月20日（火）午前10時から午前11時55分まで
開催場所 長野市役所第二庁舎10階会議室203
出席者 委員11名、傍聴10名、報道関係1社、事務局（市職員）11名
次第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 新任委員及び事務局の自己紹介
 - 4 議事
 - （1）長野市農業振興アクションプランの実施状況について
 - （2）第二期長野市農業振興アクションプランの素々案について
 - （3）長野農業振興地域整備計画の総合見直しについて
 - （4）ジビエ加工センターの運営状況等について
 - （5）その他
 - 5 閉会

議事（概要）

議題（1）長野市農業振興アクションプランの実施状況について

資料1-1及び1-2に基づき事務局から説明

質疑

（委員）新規就農者支援の対象者は、助成の終了後も農業を継続しているのか。また、親元就農支援事業は、認定農業者のみ対象なのか。自作のみで小規模の畑で就農したいという方もいる。対象を認定農業者と定めると、大きな農家のみが親元就農支援事業の対象になる。対象をもう少し緩和できないか。

（委員）認定農業者の所得500万円、年間労働時間2,000時間程度の目標は、前回の審議会でも議論された。500万円の所得に対し労働が2,000時間は、少ないと思う。第二期アクションプランに関する農業委員会のアンケートに書いたが、夏と冬の労働時間差を考慮しても、2,500時間以上は必要だと思う。自身も認定農業者であるが、500万円の収入に対し、労働時間が不釣り合いな印象を受ける。

（事務局）新規就農者支援について、中には離農した方もいる。支援後に農業で生計を立てられるように細かな指導とサポートを行っている。

親元就農支援事業について、いただいた意見があることを承知している。農業経営の大規模化の国の方針を受け、本市でも農地の集約・集積を行っており、現在のところ認定農業者の親の元での就農としている。農林水産省は、広い視野で多様な担い手を捉えており、国の状況を見ながら、対象について検討していきたい。

認定農業者の年間労働時間について、目標として2,000時間を掲げている。高

い目標であるが、スマート農業で省力化を図るほか、新しい技術の導入により、目標を達成できるよう、新規就農者や認定農業者をサポートしていき、市全体の農業振興につなげていきたい。

(委員) 指標について、概ね目標値を達成しているが、生産額は目標に達しなかった。新規就農者や利用権設定は、最近活発になっており、これを継続して事例に結び付けることが課題である。

No.15 りんご果樹振興について、ぶどうは単価が高く、早く収入が得られるので新規就農者はぶどう栽培を選び、りんご栽培の後継者が少なくなっている。今後、3、5年経つと園地の栽培状況に現れてくるので、今からりんご栽培の後継者の育成が必要と考える。新たな品種の導入や、栽培しやすい環境整備、スマート農業による機械導入など、第二期アクションプランの中での見直しが必要と考える。

(委員) 6年前からシャインマスカットを中心にぶどう栽培をしている。No. 17 果樹振興(ぶどう)について、様々な支援があるようだが制度を知らなかったため、苗、棚や機械などすべて自費でまかかった。

昨年、農地拡張のためJAに相談したところ、国の支援制度を利用できず、長野市は苗のみ支援対象とのことだった。中野市は、棚や支柱なども支援対象としていたとのことで、自治体によって差があると感じる。中野市は、グループ向け支援とのことだが、新規就農者育成のために個人を対象にした様々な支援体制を整えてもらいたい。

(事務局) 国の果樹経営支援対策事業の経営規模等の基準に照らしたものと考えられる。本市の制度も条件によって棚等の施設が、支援対象になる場合がある。また、本市の特性に合わせ、他市の有効な制度があれば参考にしたい。

(委員) 自然災害や鳥獣のほか、盗難など被害もあり、報道で取り上げられることもあるが、市の対策や実情を聞かせてほしい。

(事務局) 盗難に対する支援はない。農業共済制度の活用をお願いし、自衛策も考えていただけるよう案内したい。

(委員) 盗難対策として防犯カメラを設置したが、1台カメラが盗難に遭った。農家に対し、設置ノウハウや機器選定などで指導しているのか。

(事務局) 機器の設置に関し指導や啓発は行っていない。営農活動の一環であるので、JAとも相談して、可能なところで協力していきたい。

(委員) 2年ほど前に、収穫直前のシャインマスカットで盗難被害に遭った。そこで棚の周囲を囲むように背丈ほどの金網を設置したところ、その翌年から被害に遭っていない。園地の見回りと金網に扉を付け、鍵を掛けることが、防犯カメラよりも有効であると思う。

(委員) 設置した金網を切られた知人がいる。盗難防止には、見回りが必要だと思う。

(委員) 自然災害について、ここ数年、様々な被害があった。自然災害に対する農業の継続という点は、第二期アクションプランで重要な課題だと考える。

議題（２）第二期長野市農業振興アクションプランの素々案について

資料２－１、２－２、２－３に基づき事務局から説明

質疑

（委員）指標の農業生産額について、令和４年度が 204 億円で、令和 8 年が 1,020 億円となっているが、令和 8 年度の数值は 204 億円の 5 年分の累積値であるのか。

（事務局）そのとおり。過去 5 年の最高額の 203 億 5 千万円を切り上げ 204 億円の 5 年間累積で計算し 1,020 億円を目標としている。

（委員）年度ごとの目標をどのように捕捉するのか。積み重ねた結果、数值が上がるのが重要と考えるが、最終的に 1,020 億円を達成すればよいという考え方であるのか。

（事務局）現行のアクションプランの指標の設定を見直し、より全体が見えるものにしたと考えている。毎年、農業生産額を算出するので、各年の実績を捕捉することができる。現行のアクションプランの目標値は、果樹の生産額であるが、果樹だけでは、農業全体が見えないため、農業生産額とした。また、大きな災害があると単年の数值に振れ幅が大きくなるため、計画期間の 5 年間の累積値とした。

（委員）すべての指標、例えば令和 8 年度に地域の中心経営体 671 経営体も積み上げか。

（事務局）変更した指標は、中心経営体数と農業生産額の 2 つである。従前は、新規就農者数としていたが、重点施策に「多様な担い手づくり」とあるため、新規就農者数だけでは全体を捉えられないと判断し、地域の中心経営体数とした。また、新たに作成した「人・農地プラン」に地域の中心経営体と掲げていることもあり、その総和の数を指標に設定した。

（委員）どの施策が、どのような効果を発揮しているのかを毎年積み重ねることは重要と考える。

（委員）スマート農業でドローンを使用している農業者がいるとあるが、具体的にどのように使っているのか。

（事務局）水稻栽培で肥料散布等に使用する農業者がいる。ドローンにタンクを取り付け、農薬散布にも使えるとのことだった。バッテリーやタンクの容量によって、交換等の手間が掛かるが、従来の作業量と比較し、人的な負担が少なく、生産者の高齢化や減少の課題解決の一助になるのではないかと考える。

（委員）No.8 農業者を支える活動支援について、農村女性ネットワーク研究会の会員は、高齢化しており存続が危ぶまれると聞くが、他にも J A や県に女性グループがあるので、一つの団体ではなく女性グループ全体を支援してはどうか。

（事務局）多くの女性団体があるのは承知しているが、その所属は様々で、すべてを把握するのは難しい。代表的な団体として、農村女性ネットワークを挙げている。

(委員) 女性グループに携わった頃の指導のおかげで、現在も活動できている。若い人との連携や支援を強化していかないとグループ活動がなくなっていくと感じる。

(委員) 農村女性ネットワーク研究会では、松代農業研修センターで市民を対象とした農業講座を開催しており、農業経験のない若い人たちが意欲的に参加してくれている。

(委員) 農福連携の新しい取り組みについて、3ページ「方向性2」で、多様な担い手と考えた場合、企業の農業への参入について触れた方が良いと思う。ここで、農業に参入する企業の中にひとくくりで福祉分野との連携に触れているだけなので、重点施策でもう少し農福連携の説明がほしい。農福連携は、まだ認知度が低いので、新たな働き手になりうる農福連携など、もう少し説明を補足してほしい。

また、61ページの農地最適化委員は、正しくは農地利用最適化推進委員である。

(事務局) ご指摘のとおり修正したい。

議題（3）長野農業振興地域整備計画の総合見直し

資料3-1及び3-2に基づき事務局から説明

意見なし

議題（4）ジビエ加工センターの運営状況等について

資料4に基づき事務局から説明

(委員) 今月初め、農業委員会の研修で訪問した。素晴らしい施設で、モデル的な位置づけとなるような施設だと感じた。経営も含めてモデルとなるようにお願いしたい。

議題（5）その他

意見なし